

佳作

## おかえり

今年の三月に東北地方を中心に大地震が発生し、それにもなう津波やよしんによって大きなひがいができました。毎日のようにその様子がテレビで放送され、その中で消防士の人たちがにげおくれた人をきゅう助しに行ったり、人がいのある放しやせい物しつがもれている原子力発電所に入つて活動しているのを見て、むねが「ドキドキ」しているのを感じました。

なぜかという、わたしのお父さんは消防士で、お父さんも「こんなに大きいさいがいきると同じような活動をするのかな。」と思い、不安になったからです。わたしはお父さんに、

「パパもこんなきけんな場所に行くん。」と聞くと、

「さいがいに大きいも小さいもないんだよ。人がこまっつている所に助けに行くことが仕事だから、きけんな場所にも行かなくてはいけないこともあるよ。」と答えてくれました。

お父さんは、仕事に行くと、帰ってくるのは次の日の朝です。その時わたしは、すでに学校に行っているの、お父さんに会えるのは学校から帰ってきた時です。だ

香川県

丸亀市立垂水小学校四年

高田野乃夏

から一日い上会うことができませぬ。家や学校にいる時に地しんが起きたり、サイレンの音が聞こえると「パパ、大丈夫かな。げん場に行つてけがしてないかな。」と心配になります。

いつもわたしが学校から帰つてくると、  
「おかえり。」

と笑顔でむえてくれるお父さん。わたしは  
「ただいま。」

と言います。それが当たり前のように思っていたけれど、お父さんが仕事からぶ事に帰つてきていることがこんなにもうれしくて、安心することなんだと気づきました。これからは「ただいま。」と言うだけではなくぶ事に帰つてきてくれてありがとうという気持ちを含めて

「ただいま。パパもおかえり。」  
というようにしよう。

これからも仕事だけがをしないようにして元気に帰つてきてね。わたしも、

「おかえり。」  
と笑顔でむかえるね。